

「脱原発」を考える市民講座・四日市



活動紹介

■活動場所

四日市公害と環境未来館活動室、中部地区市民センター等

■活動日、活動頻度等

2011年5月から始めて52回となっていますが活動は不定期です。最近は、「脱原発四日市市民の集い」と共催で取り組んでいることもあります。

■活動内容など

- ・2023年8月、「福島原発“処理水”～海洋放って大丈夫なの？～」と題した講演会を実施。講師は四日市公害裁判等にもご尽力された河田昌東さん。参加者は50人余に止まりましたが中日新聞で報道されました。
- ・11月に福島から武藤類子さんをお招きして講演会を共催で開催。当講座で7年前にも講演に来ていただいております。参加者が半減したのは脱原発の風化の表れか、と考え込まれました。
- ・12月の環境フェアで出展。テーマは「処理水（あるいは汚染水）の海洋放出は本当に安全、大丈夫なの？」を展示。今年も大勢の子供たちが工作を楽しんでいたのは何よりでしたが、展示はスルーされたようで、工夫の必要を痛感させられました。

代表者の想い

四日市公害の原告側証人の一人であった宮本憲一さんの「福島原発事故は史上最悪最大の公害である」（『戦後日本公害史論』）という言葉と共に、四日市公害の歴史と教訓を基にしながら、3.11フクシマを忘れずに活動をしていきたいと思っています。

PR

この冊子が発行の時には終わっていますが、以下のような講演会で避難者の思いを聞きます。

講演：原発事故の被害とは～事故から13年経って被害者が抱える想い

講師：原発事故人権侵害訴訟・愛知岐阜 原告団団長 岡本早苗さん

2月23日（金）、於：中部地区市民センター

